



**VISION &  
STRATEGY**

第 **86** 期

事業報告書

平成14年4月1日～平成15年3月31日

**SENKO**



代表取締役社長 小池 洋

# 「BPS」を核にお客 SCM構築をサポ一

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第86期事業報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

### ○ITを駆使したBPSを核として新規需要の開拓、ローコスト化を推進

当期の物流業界は、景気を反映して、貨物輸送量の減少や一般市況における低価格化がさらに進む中、お客さまからの物流費低減要請が激しさを増し、厳しい経営環境が続きました。

このような環境にあって、当社グループは中期経営三ヵ年計画の中間年度として、ITを駆使した新ロジスティクスシステム「ベストパートナーシステム(BPS)」を核として、お客さまに効率的な物流システムの提供を積極的に進め、量販店・小売物流や調達物流分野の新規業務開拓、通販カタログの配送業務を第一弾とした新規事業展開(ニュー・バリュー・ロジスティクス)への取り組み、本州・四国地区における潤滑油物流の引き受け等、新規需要の開拓を積極的に推進してまいりました。また、社内改革プロジェクトによる拠点集約、生産性向上、経費削減等の徹底した効率化推進並びに資金効率向上による財務体質改善への取り組み等、収益向上に向けたローコスト化への対応にも積極的に取り組んでまいりました。

### ○連結営業収益は対前期比3.5%減ながら連結経常利益は対前期比1.6%増に

この結果、連結営業収益は1,674億98百万円と対前期比3.5%減となりましたが、連結経常利益は徹底したローコスト化を推進した結果、44億16百万円と対前期比1.6%増となりました。しかしながら、連結当期純利益につきましては、法人事業税の外形標準課税導入による税率の変更に伴う繰延税金資



# さまの効率的なトする



産の取崩影響などがあり、16億81百万円と対前期比16.1%減となりました。

単体決算につきましては、営業収益は、1470億36百万円と対前期比0.3%減、経常利益は、41億5百万円と対前期比0.2%減、当期利益は、15億87百万円と対前期比8.7%減となりました。なお、利益配当金につきましては、1株につき3円75銭とさせていただき、中間配当金とあわせて年間配当金は、年7円50銭とさせていただきました。

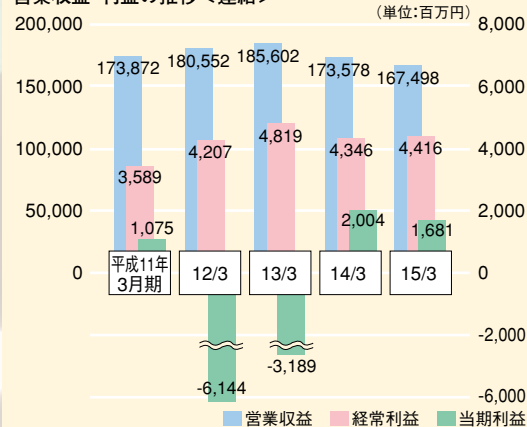
## ○SCM構築を強力にサポートし、コンプライアンスにも徹底して対応

今後の見通しにつきましては、国内貨物輸送量が低迷する中で、企業間競争にも一層拍車がかかるなど、さらに厳しい状況が続くものと思われま。一方で、お客さまは、さらなる高品質で効率的な物流システムの提案や包括的な物流業務委託によるコストダウンを期待されており、物流企業が果たすべき役割は益々重要となってきております。

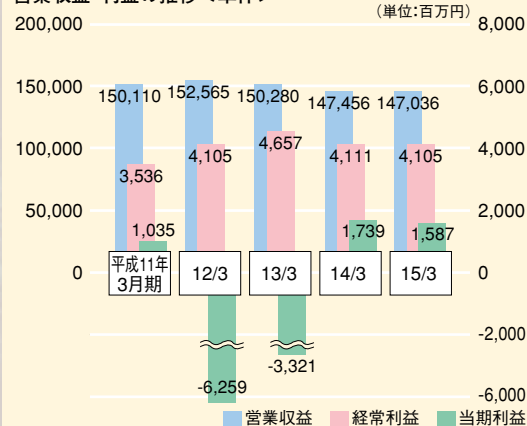
このような状況のもと、当社グループは、お客さまのご満足と信頼を得られるよう全社を挙げたCS(顧客満足)向上活動にあらためて注力すると共に、お客さまのニーズにすばやく、的確にお応えするため、「BPS」をはじめとする物流システムサービスの一層の拡充を図り、お客さまへのSCM(サプライチェーン・マネジメント)構築のサポートをより一層進めることでさらなる需要の開拓を図ってまいります。また、ローコスト化に向けた効率化推進についても引き続き徹底して取り組み、利益確保を図っていく所存であります。さらに、「センコー企業行動基準」を制定し、コンプライアンス(法令遵守)への徹底した対応を図ると共に、トラック排ガス規制・速度抑制装置の装着義務等、環境・安全対策強化への対応にも万全を期し、企業としての社会的責任を全うしていく所存であります。

株主の皆さまにおかれましては、今後共より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

営業収益・利益の推移<連結>



営業収益・利益の推移<単体>





## 貨物自動車運送事業

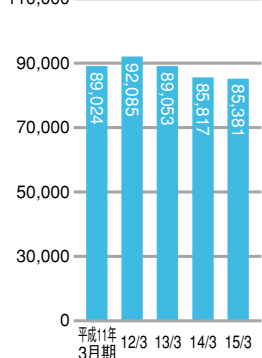
貨物自動車運送事業では、戸建を中心とする住宅建設需要の減少による住宅輸送分野での輸送量減少がありました。既存PDセンターを活用した東京地区でのホームセンター関係貨物の新規開拓、滋賀地区での物流センター新設による建材・管工機材関係貨物の開拓等、量販店・小売関係貨物並びに住宅建材をはじめとする調達貨物の開拓に努めました結果、事業収入は853億81百万円と対前期比4億36百万円(△0.5%)の減収に留まりました。

当社グループの貨物自動車運送事業は、全国にきめ細かなネットワークを展開しており、貸切輸送から積み合わせ輸送、ルート輸送、共同輸送等、お客さまの商品・物流形態に合わせた輸送・配送サービスを提供しています。輸送貨物は産業用原料から工業製品、建設・住宅資材、農産物、一般消費財、引越し荷物まで、衣・食・住すべてにかかわるものを扱っています。また車両も各種専用車・特殊車を用意するなど、フレキシブルな輸送体制が、メーカーをはじめとする多くのお客さまから高く評価されています。

### ●「貨物自動車運送事業」

#### 事業収入の推移

(単位:百万円)



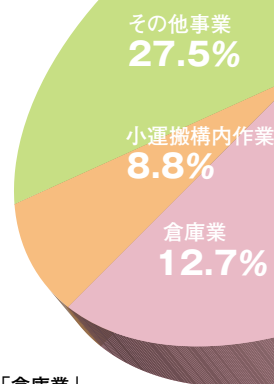
# SENKO

## 倉庫業

倉庫業では、仙台PDセンター・宮崎物流センターでの取扱貨物の拡大並びに既存物流センターでの量販店・小売関係貨物の新規開拓を積極的に進めましたものの、景気低迷により首都圏・関西圏を中心に保管貨物量の減少が大きく影響しました結果、事業収入は212億87百万円と対前期比2億43百万円(△1.1%)の減収となりました。

当社グループの倉庫拠点は、従来の倉庫のイメージを一新した物流施設で、倉庫の持つ保管機能、配送機能、商品のセット組み、値札つけなどの流通加工や高度情報機能を組み合わせ合わせたサービスを提供する複合機能型の物流センターです。

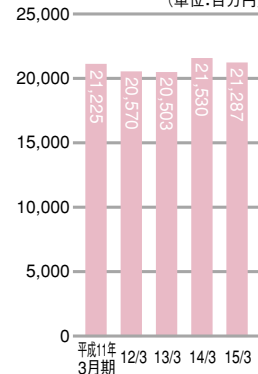
現在、全国主要拠点に157棟を設置し、総保管面積は約70万㎡に及んでおり、これら倉庫拠点を中心に、多様化するお客さまのニーズを先取りしたシステムを使って物流と情報を一体化させ、お客さまの生産と販売を支援する各種物流サービスを提供しています。



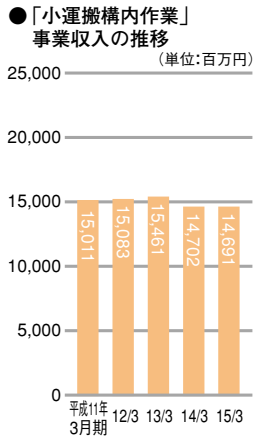
### ●「倉庫業」

#### 事業収入の推移

(単位:百万円)



## 小運搬構内作業



小運搬構内作業では、住宅関連分野での業務量の減少がありました。素材関連貨物を中心とした工場内作業の積極的拡販受託もあり、事業収入は146億91百万円と対前期比10百万円(△0.1%)の減収に留まりました。

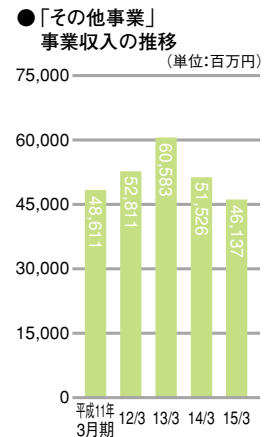
小運搬構内作業とは、お客さまの工場や倉庫などで、原材料のトラック積み卸しから製品の包装・梱包、積み込みといった物流作業から製造過程での各種作業を行うもので、物流のプロとしての確かな仕事で、工場内の物流管理を支えています。



貨物自動車運送事業  
51.0%

# NOW !!

◀◀◀ 部門別事業収入比率  
(平成15年3月期)



## その他事業

その他事業では、専用コンテナを利用した合成樹脂の海陸一貫輸送の受託や共同輸送システムの提供等、環境に配慮したモーダルシフト化提案等を推進したことによる海上輸送の増加、並びに国際物流の増加がありましたものの、石油販売事業・商事販売事業の縮小等により、事業収入は461億37百万円と対前期比53億89百万円(△10.5%)の減収となりました。

当社グループのその他事業には、鉄道利用運送、コンテナ船や専用船による海上運送、顧客専用倉庫やスペース貸し倉庫の不動産賃貸、フレイト・フォワードとして国際間の複合一貫輸送を行う国際物流、石油販売、商事販売、情報処理・ソフトウェア開発、自動車整備などが含まれています。





## センコーのソリューション提案

# 3

### Senko's Solution 3

# 樹脂・石油化学製品分野

センコーは頼れるビジネスパートナーとして、あらゆる業種のお客さまの物流課題を解決しています。

今回はその中から、時代が求める物流改革を推進してきた樹脂・石油化学製品分野を紹介。

グローバル競争時代に突入する中、時代の要請にこたえながら、

長年蓄積したノウハウとベストパートナーシステムを基盤とした最先端のITにより、

ローコストのオペレーションや物流の効率化をはかっています。



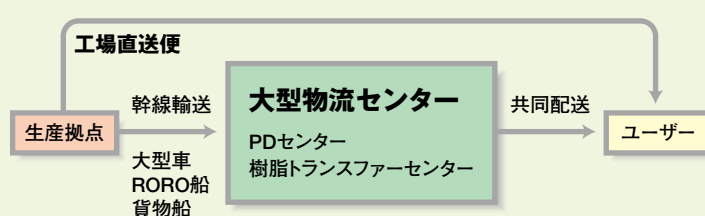
## 創業以来蓄積してきた、樹脂物流の豊富なノウハウを活かして、 物流効率化ニーズと時代の要請に応えます。



たとえば、こんなソリューションをご提案します。

### 拠点集約と直送化がコスト削減のキーワードです。

樹脂トランスファーセンターは、樹脂製品の物流に特化した流通拠点です。広大な全天候型荷捌場を備えて、各地の工場から幹線輸送されてきた製品を在庫することなく荷捌きでき、共同配送、多運行配送によって効率化を図ることが可能です。



当社では、お客さまの物流改革の確かなパートナーとして貢献するために、樹脂・石油化学製品分野における豊富なノウハウを活かしながら、さまざまなシステムを提供しています。10トン以上の大口の取引先へは「工場直送便」を拡大する一方で、分散するデポを集約し、「樹脂トランスファーセンター」などの大型物流拠点を設けて物流拠点から直送を行う効率的な「広域輸送システム」を提供。「樹脂トランスファーセンター」などの物流拠点では、各地の工場から幹線輸送されてきた製品を倉庫内に入庫することなく、荷卸し→仮置き→仕分け→積み込みを行う「倉前荷捌き」、立地を活かした「共同配送」、「多運行配送」をはじめ、詰替計量機による紙袋とフレコンバックの各種詰替作業なども提供しています。また、幹線輸送には、20トントレーラーなどの大型車、モーダルシフト化を図るRORO船、貨物船など、効率化と時代のニーズに対応した最適輸送モードも編成します。

## コスモ石油ルブリカンツ(株)殿の本州・四国地区の潤滑油物流を全面引き受け

当社では、コスモ石油ルブリカンツ(株)殿の潤滑油製品の本州・四国地区の輸配送業務を全面的に引き受け、10月1日より業務をスタートさせました。具体的には、コスモ石油ルブリカンツ(株)殿の4工場から毎夕、出荷された製品を配送エリア単位に幹線輸送し、翌朝、各配送拠点に到着後、荷卸し、仮置き、仕分け、積込みという倉前荷捌き(クロスドックシステム)を行います。その後、他社

製品との積合わせによる「シャトル便」として多運配送するなど、全国翌日配送の無在庫システムで対応します。

また、配達完了や到着予定時刻情報などの配送状況等は、貨物追跡システムでインターネットを通してリアルタイムで提供。各種情報はiモードやDoPa(携帯端末によるパケット通信)を使って入力するなど、情報面からもサポートしていきます。



## 出光石油化学(株)殿の合成樹脂輸送でモーダルシフト化と物流合理化を推進

環境負荷の低減に向けたモーダルシフト化と物流の合理化を目的に、当社では、出光石油化学(株)殿の合成樹脂輸送において、バルクコンテナを使用した海陸一貫輸送(シー・バルクコンテナ輸送)を本格的にスタートさせました。バルクコンテナシステムは出光石油化学(株)殿が自社開発されたシステムで、工場で充填した製品をハンドリングなしで納入先のプラントに直接投入できるというもの。これまではトラック(トレーラー)がその

中心的担い手でしたが、シー・バルクコンテナ輸送では幹線輸送に船舶を利用します。

これにあたり、返送コンテナ利用による海上輸送システムも同時にスタート。シー・バルクコンテナ輸送とあわせて効率的にオペレーションするために、「コンテナ積載管理システム」や「船舶動静管理システム」など、ITを駆使した海運系ベストパートナーシステムを導入しています。



## グループ全員の行動規範として「センコー企業行動基準」を制定

当社では、グループすべての役員・従業員の行動規範となる「センコー企業行動基準」を制定するとともに、「センコーグループ企業倫理委員会」と「企業倫理ヘルプライン(相談窓口)」を設置。社内における行動倫理の再点検を行うと同時に、コンプライアンス経営推進体制の整備・充実を図りました。

「センコー企業行動基準」では、遵守すべき事項として①サービス向上と安全の徹底、②社会規範の遵守、③社会への貢献、④地球環境の

保護、⑤適正な職場環境、⑥情報の公開、⑦倫理問題の処理の7項目を掲げ、項目ごとに具体的な行動規範を定めています。

一方、これを機に、企業倫理に関する方針決定、企業倫理全般に関する審議等を行う機関として、「センコーグループ企業倫理委員会」を設置。また、重要情報が現場から経営層に伝わるルートとして、「企業倫理ヘルプライン(相談窓口)」も設置しています。





## 単体

## 貸借対照表

(平成15年3月31日現在)

■単位:百万円

資産の部		負債の部	
流動資産	37,075	流動負債	43,462
現金・預金	12,768	支払手形	697
受取手形	3,771	営業未払金	9,274
営業未収入金	16,187	短期借入金	12,659
繰延税金資産	880	1年以内償還予定の転換社債	13,330
その他の流動資産	3,516	その他の流動負債	7,501
貸倒引当金	△50		
固定資産	84,467	固定負債	36,613
有形固定資産	65,664	社債	5,000
建物	25,992	長期借入金	12,825
船舶	740	その他の固定負債	18,788
車輛運搬具	1,241		
土地	33,761		
その他の有形固定資産	3,929		
無形固定資産	762	負債合計	80,075
投資等	18,040		
投資有価証券	799		
長期繰延税金資産	7,195		
その他の投資	10,321		
貸倒引当金	△275		
		資本の部	
		資本金	18,295
		資本剰余金	16,386
		利益剰余金	6,957
		(うち当期利益)	(1,587)
		株式等評価差額金	△1
		自己株式	△171
		資本合計	41,466
資産合計	121,542	負債及び資本合計	121,542

## 損益計算書

(平成14年4月1日から平成15年3月31日まで)

■単位:百万円

営業収益	147,036
営業費用	142,539
営業利益	4,496
営業外収益	711
営業外費用	1,102
経常利益	4,105
特別利益	193
特別損失	799
税引前当期利益	3,498
法人税、住民税及び事業税	136
法人税等調整額	1,775
当期利益	1,587
前期繰越利益	883
中間配当額	417
当期末処分利益	2,054

## 利益処分

■単位:百万円

当期末処分利益	2,054
特別償却積立金取崩額	14
合計	2,068

これを次のとおり処分します。

利益配当金	416
(1株につき3円75銭)	
役員賞与金	31
(取締役賞与金)	(27)
(監査役賞与金)	(4)
固定資産圧縮積立金	30
別途積立金	750
次期繰越利益	840

# DATA OF SENKO

## [会社概要] (平成15年3月31日現在)

### 会社の概要

商号	センコー株式会社
資本金	18,295,643,751円
創業	大正5年9月
設立	昭和21年7月
事業所	216ヶ所
従業員	3,673名
貨物自動車	1,807輛
所有船舶	6隻
倉庫	695,179㎡

### 主要な事業所

#### ■本社

大阪市北区大淀中一丁目1番30号

#### ■ロジスティクス営業本部

・関東ブロック統括営業部

東京都港区浜松町一丁目26番1号

・中部ブロック統括営業部

名古屋市西区牛島町5番2号

・関西ブロック統括営業部

大阪市北区大淀中一丁目1番30号

・九州ブロック統括営業部

福岡市東区箱崎ふ頭五丁目1番40号

#### ■部支店

札幌、仙台、茨城、北関東、埼玉、柏、東京、

神奈川、千葉、静岡東、静岡西、名古屋、

三重、北陸、京滋、京滋南、大阪、阪神、

岡山、倉敷、山口、福岡、延岡、水俣、

国際物流、海運、通運

### 役員

代表取締役会長	馬場 英次
代表取締役社長	小池 洋
代表取締役副社長	田中秋夫
常務取締役	福田泰久
常務取締役	賀木 勲
取締役	池田宜郎
取締役	和田定晋
取締役	柘植道義
取締役	伊藤忠雄
取締役	佐賀和夫
取締役	幡野哲夫
取締役	鈴木 勲
常勤監査役	林 正浩
常勤監査役	高橋三郎
常勤監査役	浅野英雄
監査役	板脇 弘

### 子会社

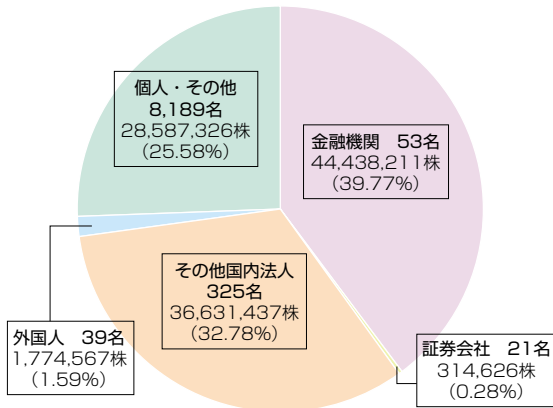
センコー商事(株)
(株)センコー保険サービス
センコー情報システム(株)
(株)センコー引越プラザ
札幌センコー運輸(株)
東北センコー運輸(株)
関東センコー運輸整備(株)
千葉センコー運輸整備(株)
富士センコー運輸(株)
東海センコー運輸(株)
滋賀センコー運輸整備(株)
大阪センコー運輸整備(株)
中四国ロジスティクス(株)
三協貨物(株)
山陽センコー運輸(株)
(株)四国冷凍運輸倉庫
福岡センコー運輸(株)
熊本センコー運輸(株)
宮崎センコー運輸整備(株)
埼玉センコーアポロ整備(株)
大東センコーアポロ(株)
北陸センコーアポロ(株)
宮崎センコーアポロ(株)
中日本資材(株)
センコーフーズ(株)
(株)クレフィール湖東
広州扇興物流有限公司
Senko International Logistics Pte. Ltd.

## [株式情報] (平成15年3月31日現在)

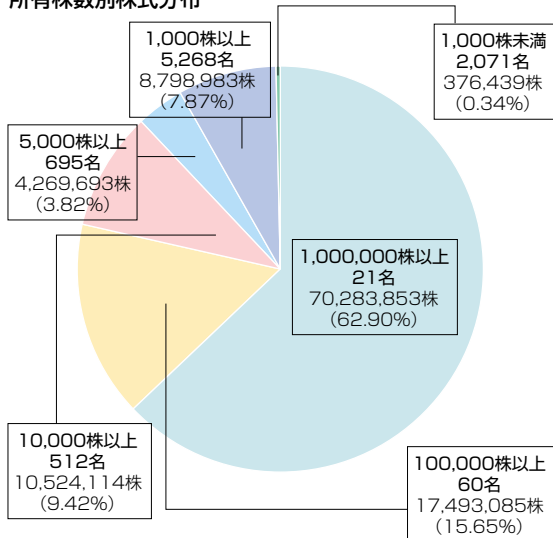
### 株式の状況

発行済株式総数 111,746,167株  
株主総数 8,627名

#### 所有者別株式分布



#### 所有株数別株式分布



#### 大株主 (上位10位)

株主名	所有株式数(株)	所有比率(%)
旭化成株式会社	10,676,726	9.55%
積水化学工業株式会社	6,785,900	6.07%
センコーグループ従業員持株会	5,795,743	5.19%
三菱信託銀行株式会社	5,360,000	4.80%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	5,338,000	4.78%
株式会社UFJ銀行	5,300,516	4.74%
東京海上火災保険株式会社	4,439,170	3.97%
エイアイジー・スター生命保険株式会社一般勘定	3,200,000	2.86%
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,169,655	2.84%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	2,906,000	2.60%

#### 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
配当金受領株主確定日	3月31日(利益配当金) 9月30日(中間配当金)
名義書換代理人	三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
電話照会先	三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (03) 5391-1900(代表)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
	決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書の開示は、当社ホームページ( <a href="http://www.senko.co.jp/">http://www.senko.co.jp/</a> )に掲載しております。





〒531-6115 大阪市北区大淀中一丁目1番30号 TEL. (06) 6440-5155 (代表)

URL <http://www.senko.co.jp/>